

3 現時点の状況

(1) 現在避難している先の自治体

問3 あなたが現在避難されている先の市町村を教えてください。(具体的に)

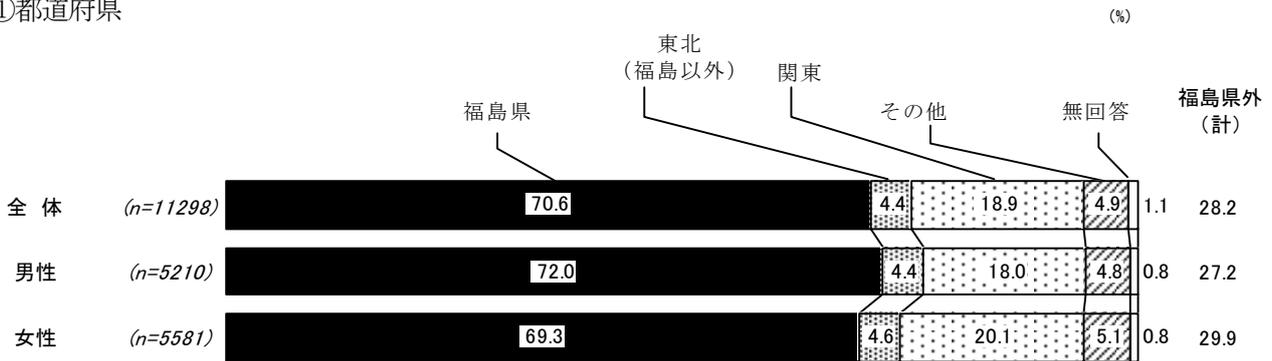
現在の避難先を都道府県別に見ると、「福島県」内(70.6%)が7割を占め、次いで「関東」が18.9%となっている。(図表3-1-1①)

さらに市町村を見ると、「福島市」が18.2%で最も多く、次いで「二本松市」(13.2%)、「いわき市」(10.5%)、「郡山市」(7.5%)の順となっている。(図表3-1-1②)

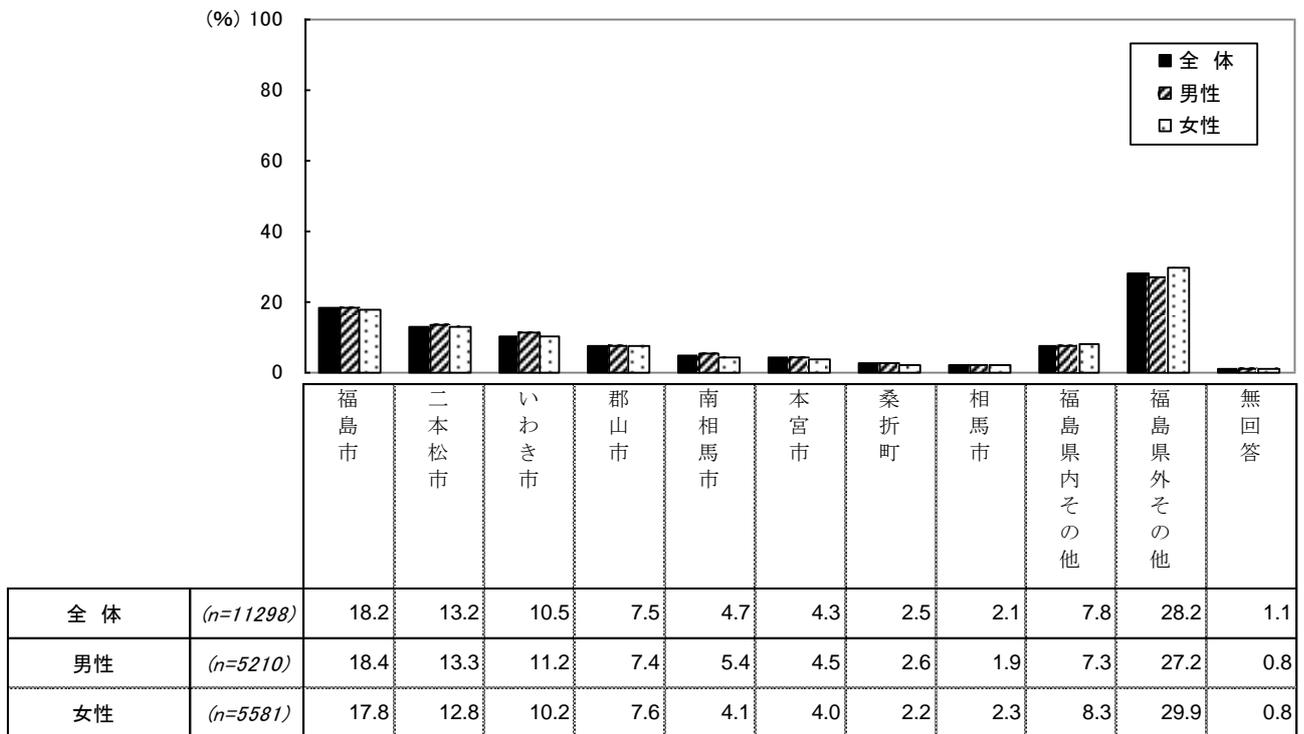
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表3-1-1①②)

図表3-1-1 現在避難している先の自治体(男女別)

①都道府県



②福島県内

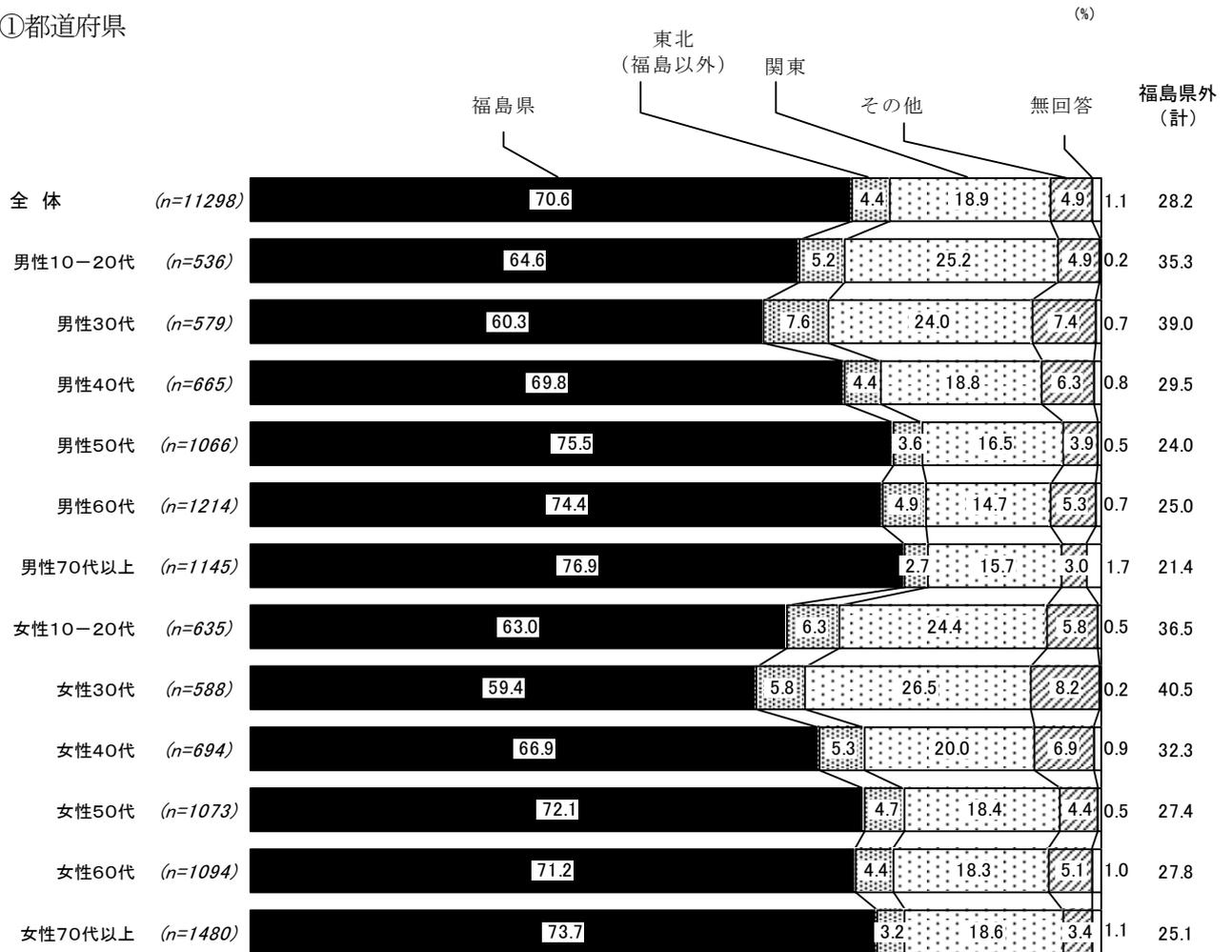


性・年代別に見ると、男女とも「福島県」内で避難生活を送る回答者が多数を占め、特に50代以上になると7割を上回る。一方、男女とも10~30代のはぼ4人に1人は、「関東」への避難者となっている。(図表3-1-2①)

市町村で見ると、女性の10~20代では、「いわき市」に避難している回答者が最も多いが、他の性・年代層では「福島市」への避難者が最も多くなっている。(図表3-1-2②)

図表 3-1-2 現在避難している先の自治体(性・年代別)

①都道府県



②福島県内

		福島市	二本松市	いわき市	郡山市	南相馬市	本宮市	桑折町	相馬市	福島県内 その他	福島県外 その他	無回答
全体	(n=11298)	18.2	13.2	10.5	7.5	4.7	4.3	2.5	2.1	7.8	28.2	1.1
男性10-20代	(n=536)	14.7	11.9	12.3	8.8	4.9	3.0	1.1	2.4	5.4	35.3	0.2
男性30代	(n=579)	14.3	6.0	12.6	7.3	4.7	3.1	0.9	1.4	10.0	39.0	0.7
男性40代	(n=665)	18.6	9.8	13.8	6.9	6.6	3.2	1.5	2.6	6.8	29.5	0.8
男性50代	(n=1066)	17.2	13.3	15.6	8.2	6.9	5.1	1.6	2.1	5.6	24.0	0.5
男性60代	(n=1214)	19.4	15.1	9.0	6.9	4.7	6.3	3.4	2.1	7.7	25.0	0.7
男性70代以上	(n=1145)	22.3	17.6	6.6	7.0	4.5	4.3	5.0	1.4	8.4	21.4	1.7
女性10-20代	(n=635)	12.8	10.1	14.3	9.0	3.3	2.5	1.1	3.1	6.8	36.5	0.5
女性30代	(n=588)	12.2	9.7	10.2	7.5	2.4	3.2	0.9	2.9	10.4	40.5	0.2
女性40代	(n=694)	18.2	11.4	12.0	7.1	3.9	2.3	0.7	3.0	8.4	32.3	0.9
女性50代	(n=1073)	17.0	11.8	13.0	9.1	5.9	4.7	1.0	2.1	7.5	27.4	0.5
女性60代	(n=1094)	20.1	12.8	7.5	7.0	4.7	5.0	3.5	1.7	8.9	27.8	1.0
女性70代以上	(n=1480)	20.9	16.7	7.5	6.6	3.6	4.6	3.9	1.8	8.1	25.1	1.1

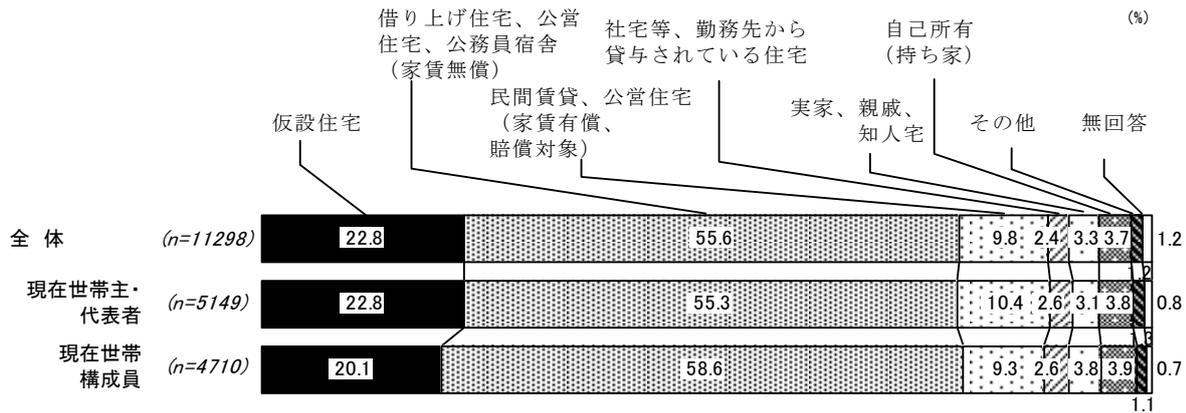
(2) 現在の住居種別

問4 現在お住まいになっている住宅はどのような所有形態、住宅の建て方ですか。(〇は1つ)
 (1) 所有形態(〇は1つ)
 (2) 住居の建て方(〇は1つ)

現在の住居形態としては、「借り上げ住宅、公営住宅、公務員宿舎(家賃無償)」(55.6%)が過半数を占めて最も多く、次いで「仮設住宅」が22.8%となっている。(図表 3-2-1)

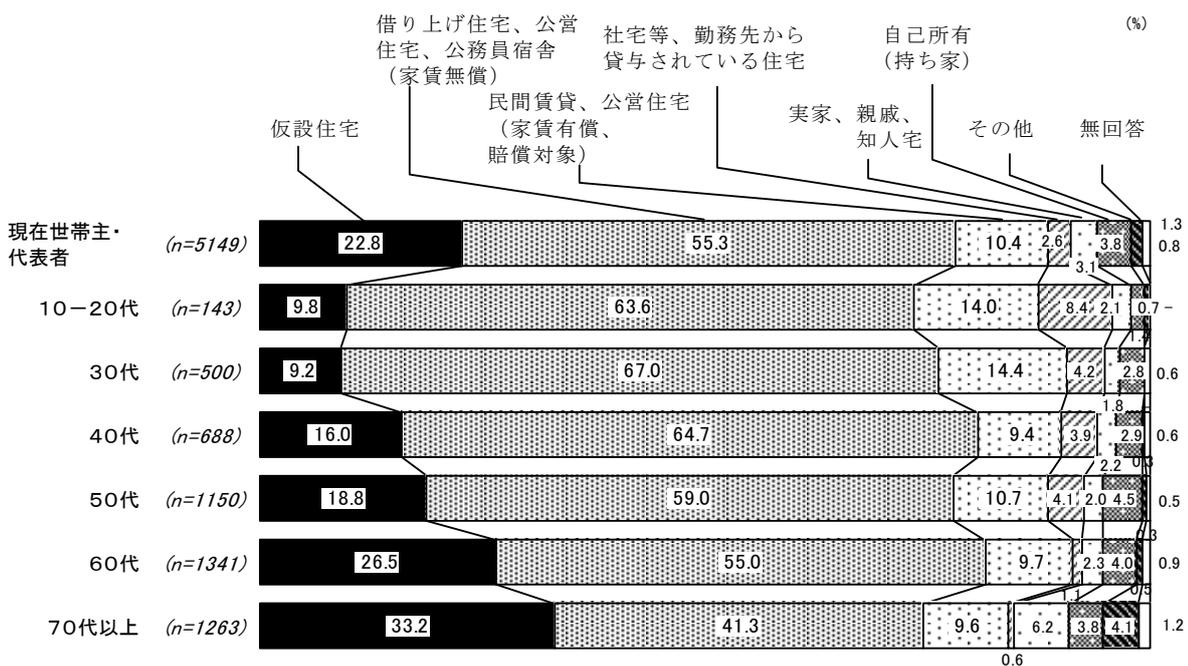
現在の世帯での立場別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-2-1)

図表 3-2-1 現在の住居種別(現在の世帯での立場別)



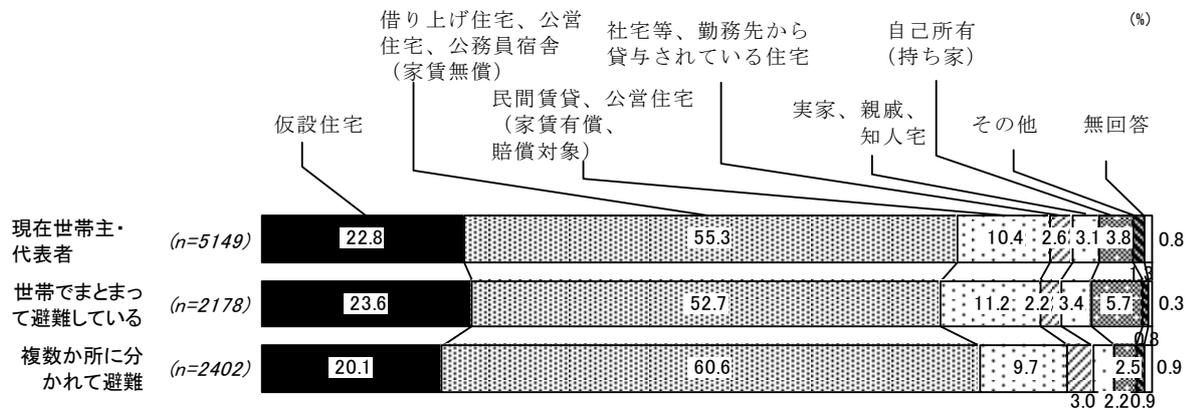
世帯主もしくは世帯の代表者(5,149人)の年代別に見ると、高年齢層の世帯主・代表者ほど「仮設住宅」居住が多く、70代以上(33.2%)では3割以上となっている。一方、「借り上げ住宅、公営住宅、公務員宿舎(家賃無償)」居住は、若年齢層の世帯主・代表者ほど多く入居している傾向があり、40代以下では6割以上を占めている。(図表 3-2-2)

図表 3-2-2 現在の住居種別(世帯主・代表者の年代別)



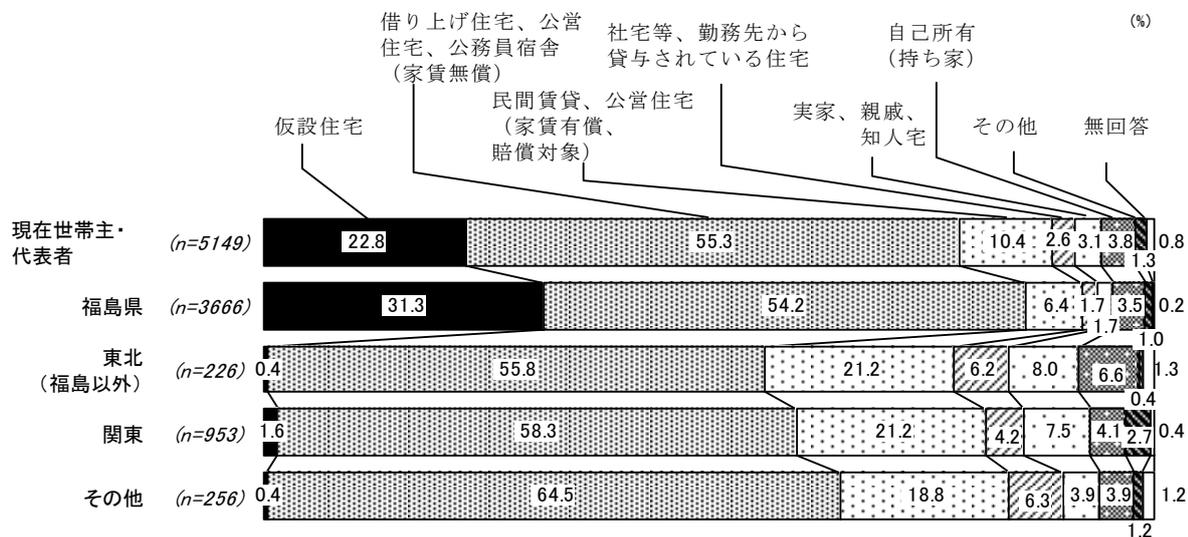
世帯の避難状況別に見ると、「借り上げ住宅、公営住宅、公務員宿舎(家賃無償)」居住は、分散世帯で 60.6%と、まとまって避難している世帯(52.7%)より多い。(図表 3-2-3)

図表 3-2-3 現在の住居種別(世帯の避難状況別)



世帯の現在の避難先別に見ると、いずれの避難先でも「民間住宅・公営住宅などの借り上げ型」居住が最も多く、福島県内避難世帯では、次いで「仮設住宅」居住世帯が 31.3%となっている。福島県以外の東北地方に居住する避難世帯では、次いで「民間賃貸、公営住宅(家賃有償、賠償対象)」がともに 21.2%である。(図表 3-2-4)

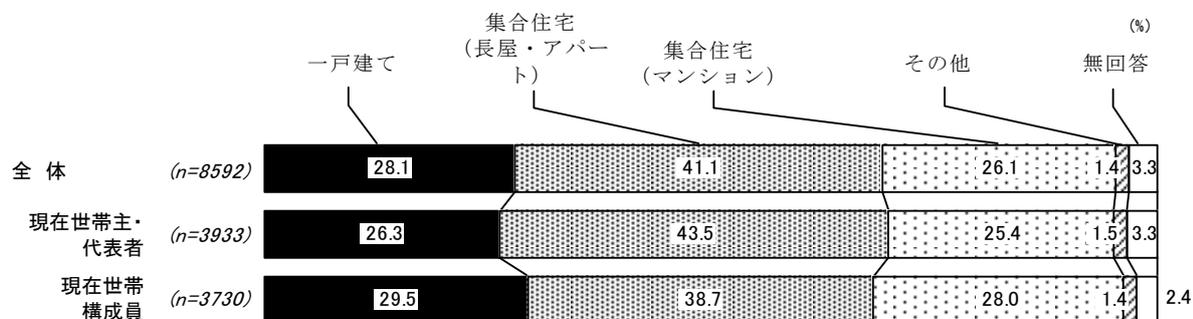
図表 3-2-4 現在の住居種別(世帯の現在の避難先別)



現在、仮設住宅以外に居住している人(8,592人)に、現在居住の住宅の建て方を聞いたところ、2階建て以下の「集合住宅(長屋、アパート)」が41.1%と最も多く、次いで「一戸建て」(28.1%)と、3階建て以上の「集合住宅(マンション)」(26.1%)がともに2割台となっている。(図表3-2-5)

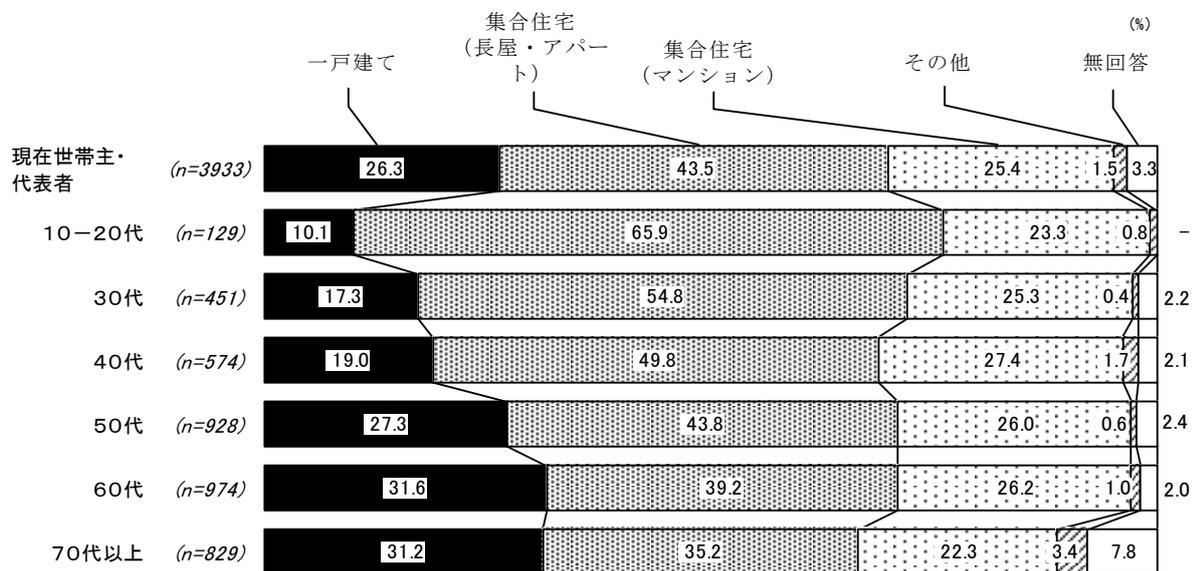
現在の世帯での立場別に見ると、「集合住宅(長屋、アパート)」入居者は、現在世帯主もしくは世帯の代表者の43.5%、世帯構成員では38.7%となっている。(図表3-2-5)

図表 3-2-5 現在の住宅の建て方(現在の世帯での立場別)



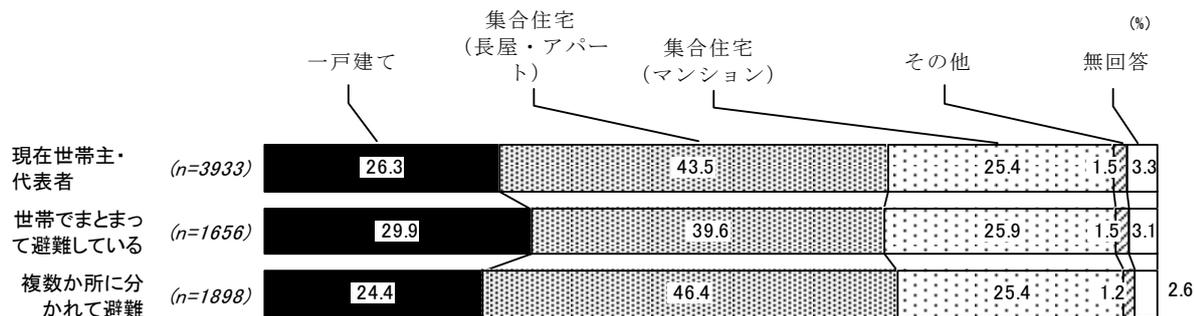
世帯主もしくは世帯の代表者(3,933人)の年代別に見ると、若年齢層の世帯主・代表者ほど「集合住宅(長屋、アパート)」入居世帯が多く、10~20代では65.9%の世帯が入居している。一方、「一戸建て」は、高年齢層の世帯主・代表者ほど多い傾向がある。(図表3-2-6)

図表 3-2-6 現在の住宅の建て方(世帯主・代表者の年代別)



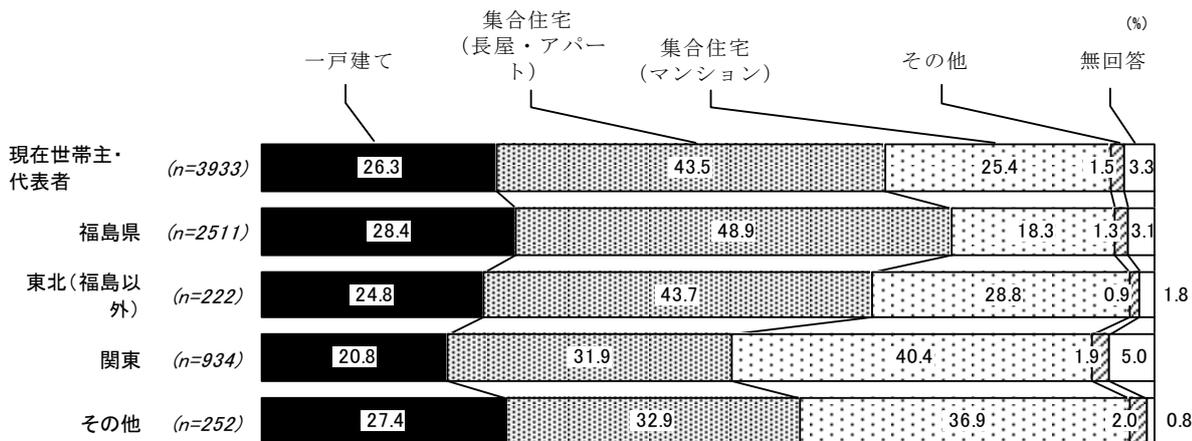
世帯の避難状況別に見ると、分散世帯は「集合住宅(長屋、アパート)」入居(46.4%)が半数近い。(図表 3-2-7)

図表 3-2-7 現在の住宅の建て方(世帯の避難状況別)



世帯の現在の避難先別に見ると、福島県以外の東北地方に居住する世帯では、「集合住宅(長屋、アパート)」入居世帯が最も多く、次いで福島県内居住世帯では「一戸建て」(28.4%)、福島県以外の東北地方に居住する世帯では「集合住宅(マンション)」(24.8%)に居住している世帯が、それぞれ多くなっている。一方、関東地方に避難している世帯では4割が「集合住宅(マンション)」(40.4%)に居住している。(図表 3-2-8)

図表 3-2-8 現在の住宅の建て方(世帯の現在の避難先別)



(3) 現在の職業

1)現在の職業

問 5-1 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。(〇は1つ)

(1)職業(就業形態)

(2)業種

現在の職業を聞いたところ、「無職(退職者も含む)」(54.2%)が過半数を占め、「学生」(4.3%)を合わせると、6割近くが職に就いていない。有職者の職業は、「会社員(労務)」(11.8%)、「パート・アルバイト」(5.9%)に次いで、「自営業(休業中)」が5.7%となっている。(図表 3-3-1①)

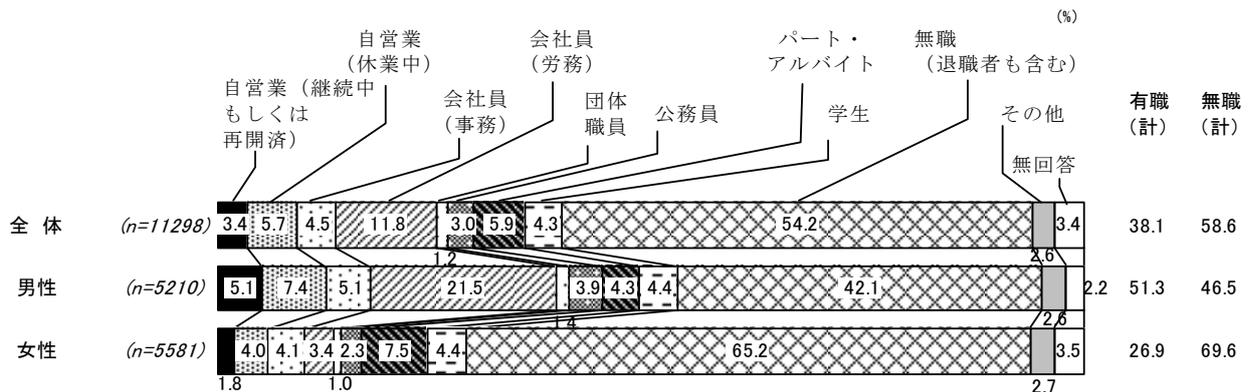
有職者(3,963人)の業種としては、「卸・小売り・飲食、サービス業」が25.1%で最も多く、次いで「建設業」(21.7%)、「製造業」(12.9%)などの順となっており、この3業種ではほぼ6割を占めている。(図表 3-3-1②)

男女別に職業を見ると、「会社員(労務)」(男性21.5%、女性3.4%)は女性より男性に多く、男女差が大きい。これに対して、「無職」は、女性で65.2%と、男性を20ポイント以上上回っている。(図表 3-3-1①)

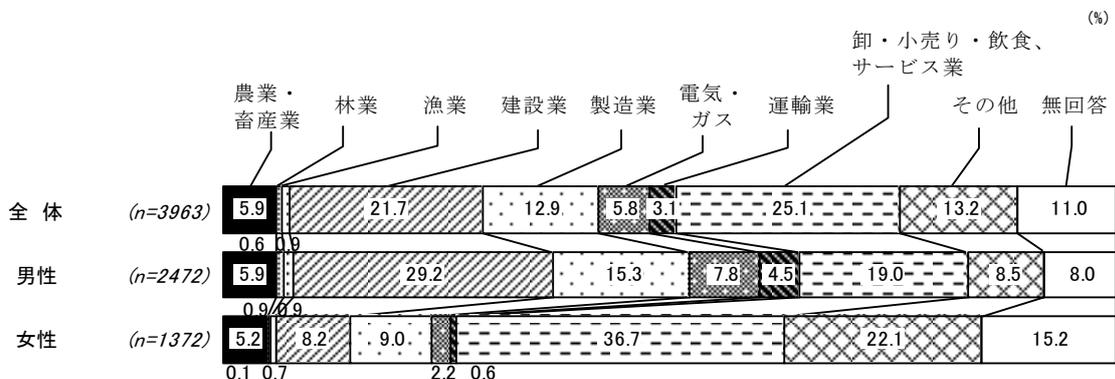
さらに業種を見ると、「建設業」(男性29.2%、女性8.2%)と「製造業」(同15.3%、9.0%)は女性より男性に、「卸・小売り・飲食、サービス業」(同19.0%、36.7%)は男性より女性に、それぞれ多くなっている。(図表 3-3-1②)

図表 3-3-1 現在の職業(男女別)

①職業



②業種



性・年代別に職業を見ると、男性の30～40代では4割以上が「会社員(労務)」で、50代でも32.6%と、他の性・年代層より多くなっている。一方、女性は30～50代で4割前後が仕事に就いており、「パート・アルバイト」「会社員(事務)」「会社員(労務)」など就業形態は多様である。

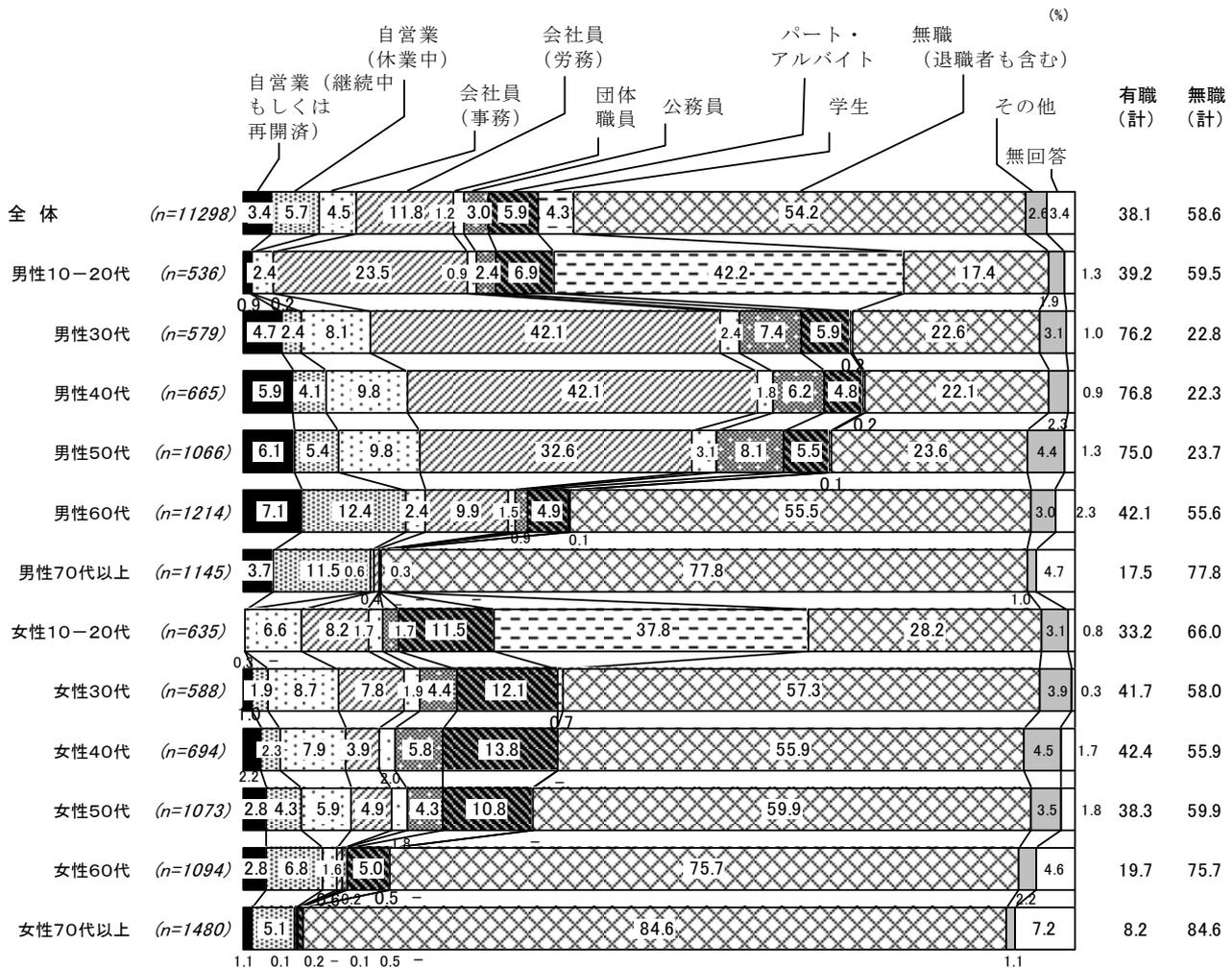
「無職」は、男性の70代以上、女性の60代以上の年齢層で7割を上回っている。(図表3-3-2①)

性・年代別に業種を見ると、「建設業」従事者は男性の60代で39.8%と、他の性・年代層より多くなっている。また、「製造業」は男性の若年齢層で多く、40代以下では2割台となっている。一方、女性では、「卸・小売り・飲食、サービス業」従事者が10～30代と60代で4割前後と、他の性・年代層より多くなっている。

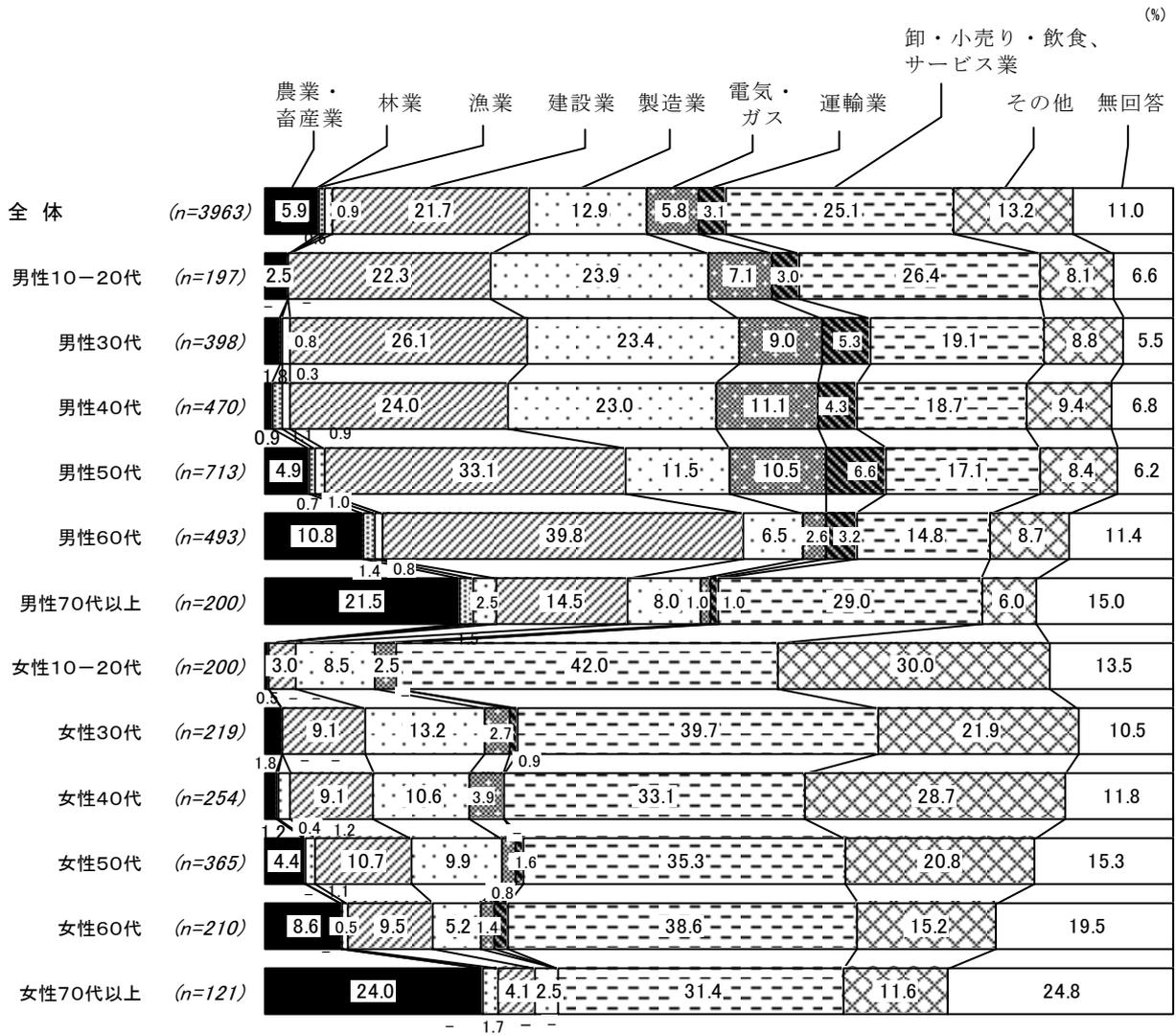
男女とも70代以上では「農・林・漁・畜産業」が2割を上回っている。(図表3-3-2②)

図表3-3-2 現在の職業(性・年代別)

①職業



②業種

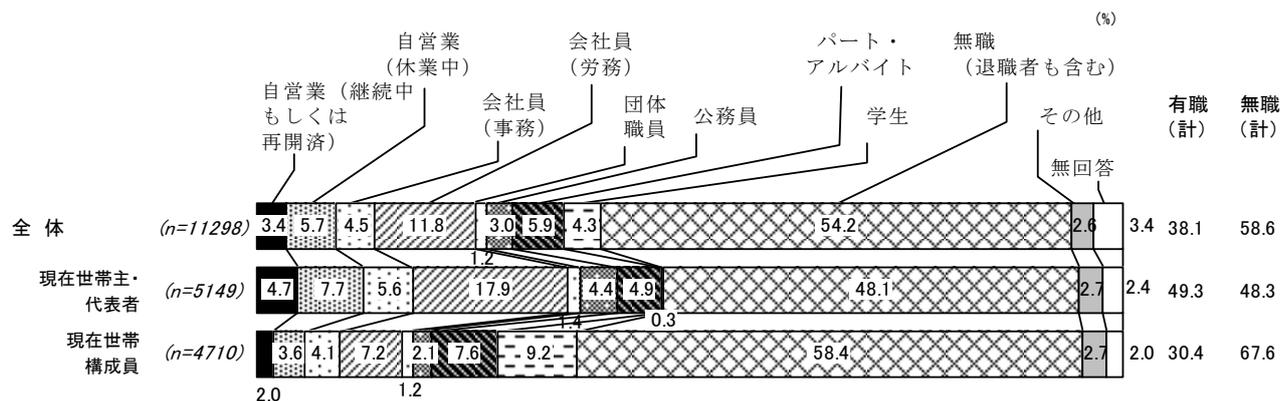


現在の世帯での立場別に職業を見ると、現在世帯主もしくは世帯の代表者は半数近くが有職で、「会社員(労務)」(17.9%)が最も多くなっている。一方、世帯主以外の世帯構成員で仕事に就いているのは3割で、「パート・アルバイト」(7.6%)、「会社員(労務)」(7.2%)など、いずれも1割に満たない。(図表3-3-3①)

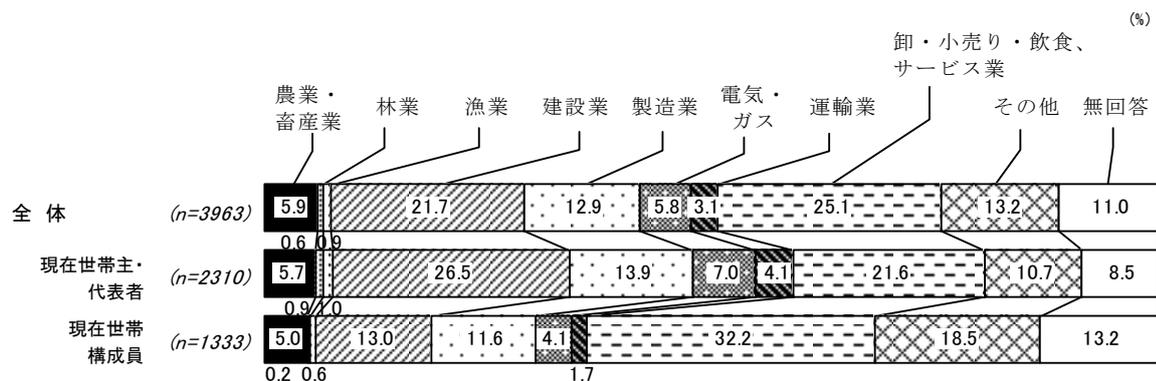
さらに業種をみると、現在世帯主もしくは世帯の代表者では「建設業」(26.5%)と「卸・小売り・飲食、サービス業」(21.6%)がそれぞれ2割を上回り、この2つの業種で半数近くを占めているが、現在構成員では「卸・小売り・飲食、サービス業」が32.2%で、「建設業」(13.0%)と「製造業」(11.6%)はともに1割台となっている。(図表3-3-3②)

図表 3-3-3 現在の職業(現在の世帯での立場別)

①職業



②業種



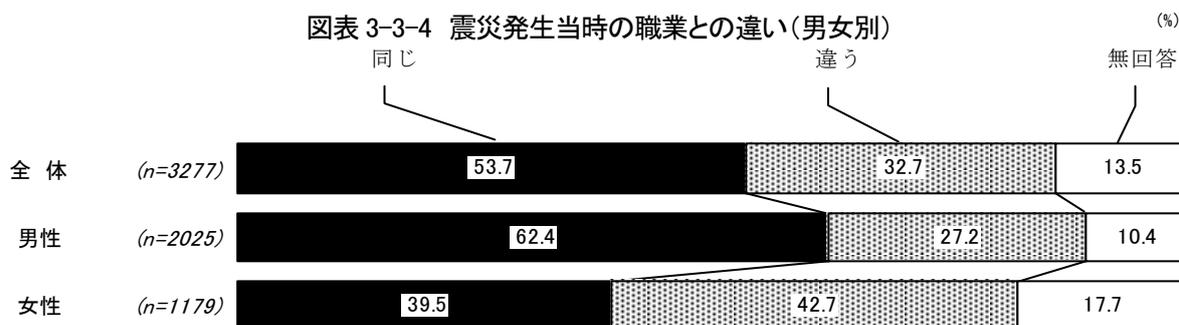
2) 震災発生当時の職業との違いと変わった理由

【自営業以外の仕事についている方にうかがいます。】

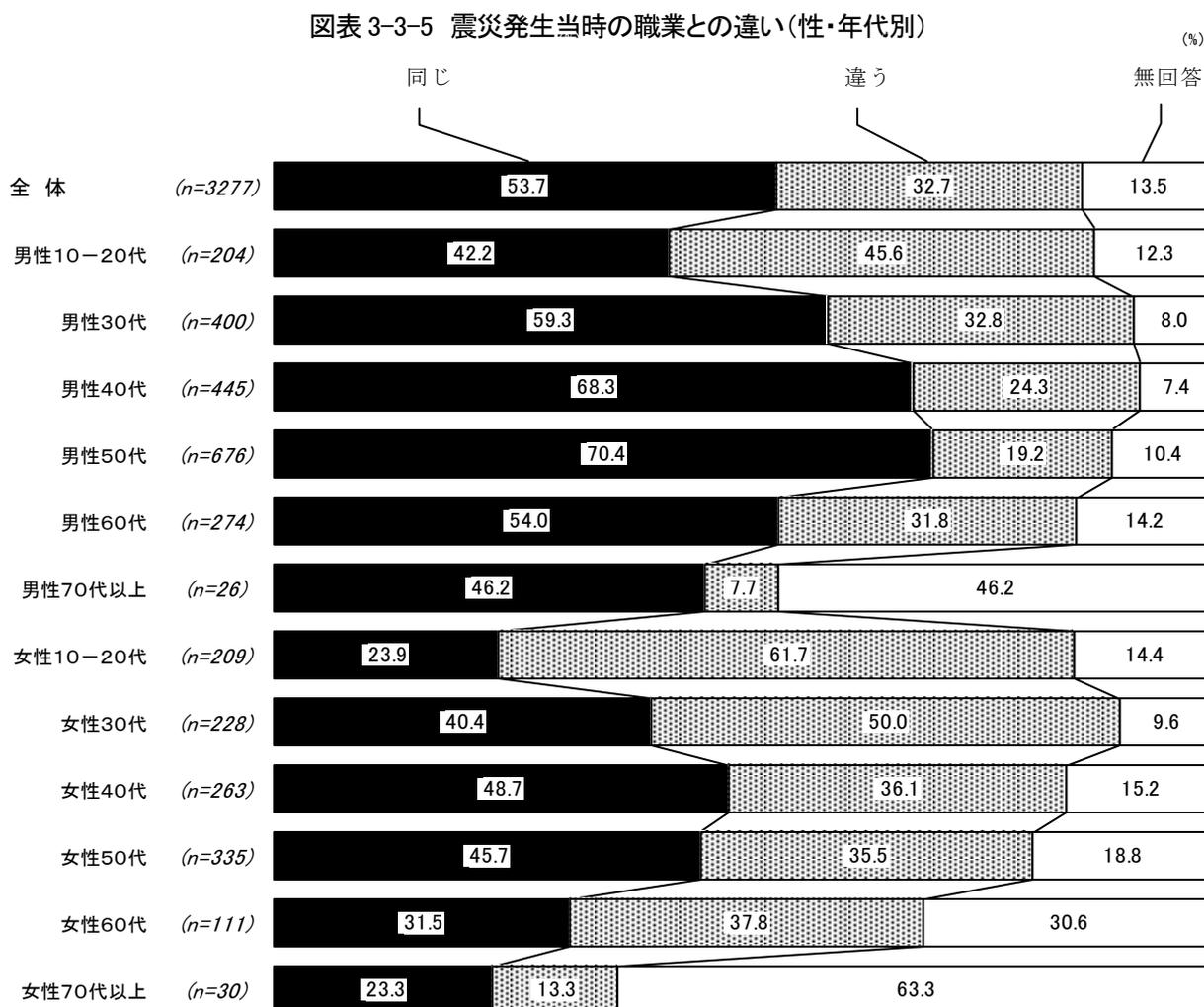
問 5-2 現在勤めている会社・組織・団体は、震災発生当時の会社・組織・団体と同じですか。(○は1つ)

自営業以外の有職者(3,277 人)に、現在の職業が震災発生当時の職業と同じかどうかを聞いたところ、過半数は、現在の職業が震災発生当時と「同じ」(53.7%)であると回答している。(図表 3-3-4)

男女別に見ると、男性の 62.4%は、震災発生当時と「同じ」職業に就いていると回答しているが、女性では 39.5%で、女性の 4 割以上は、当時と「違う」職業(42.7%)に就いている。(図表 3-3-4)

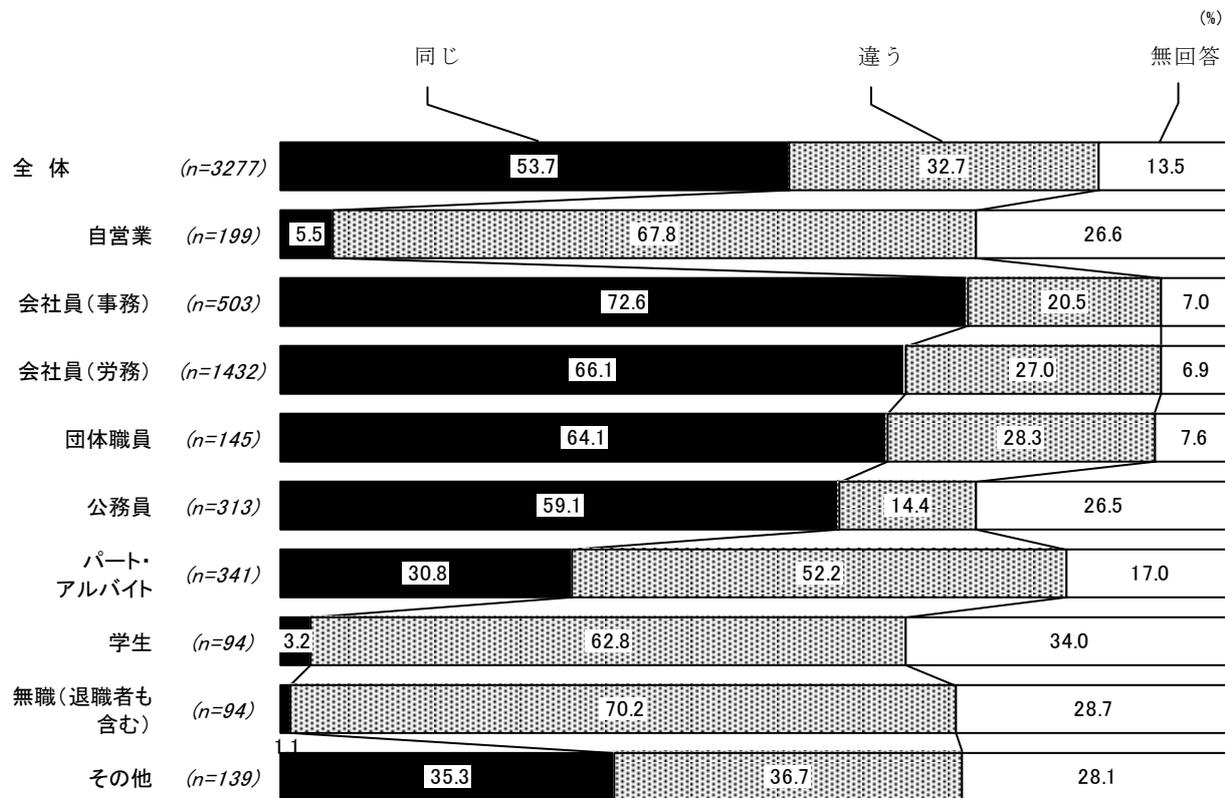


性・年代別に見ると、男性では 40～50 代で震災発生当時と「同じ」職業に就いている人がほぼ 7 割と、他の性・年代層より多くなっている。(図表 3-3-5)



震災発生当時の職業別に見ると、当時有職者のうち自営業もしくはパート・アルバイトの回答者では、震災発生当時と現在の職業が「違う」という人が5割以上を占めている。(図表 3-3-6)

図表 3-3-6 震災発生当時の職業との違い(震災発生当時の職業別)



3) 求職状況(無職者)

【問5-1(1)職業で、「2 自営業(休業中)」「9 無職(退職者も含む)」と回答した方にかがいます。それ以外の方は問6-1へお進みください。】

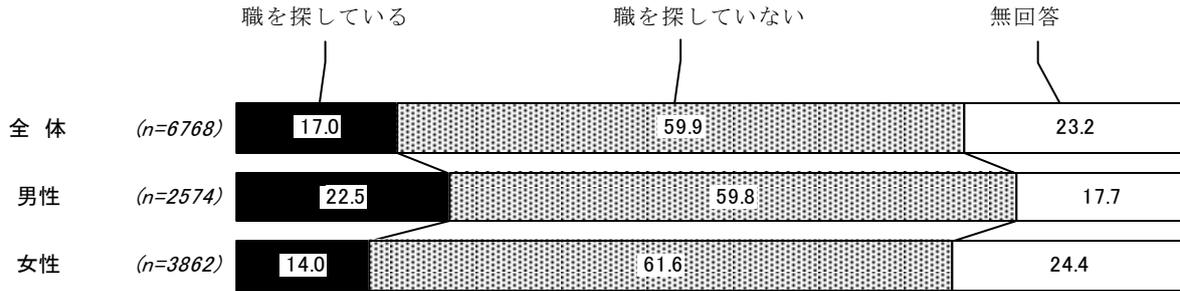
問5-3 あなたは現在、職を探していますか。自営業の方は、事業再開までに、一時的に別の職を探しているかどうかを教えてください。(〇は1つ)

現在無職の回答者(6,768人)に求職状況を聞いたところ、「職を探している」という回答は17.0%で、6割は「職を探していない」(59.9%)と回答している。(図表3-3-7)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表3-3-7)

図表3-3-7 求職状況(男女別)

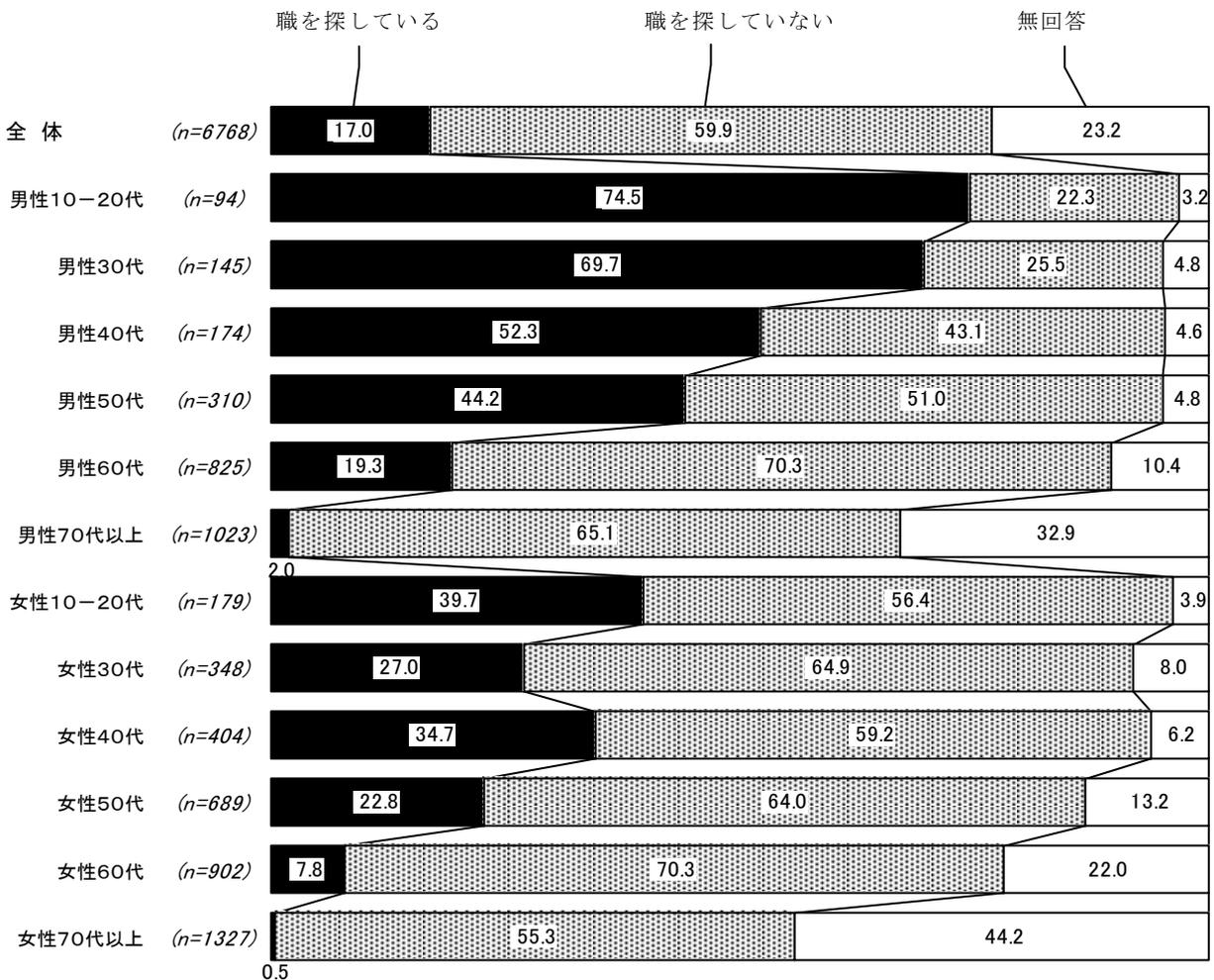
(%)



性・年代別に見ると、男女とも若年齢層ほど「職を探している」と回答する傾向があり、特に男性の10~30代では、ほぼ7割が求職している。(図表3-3-8)

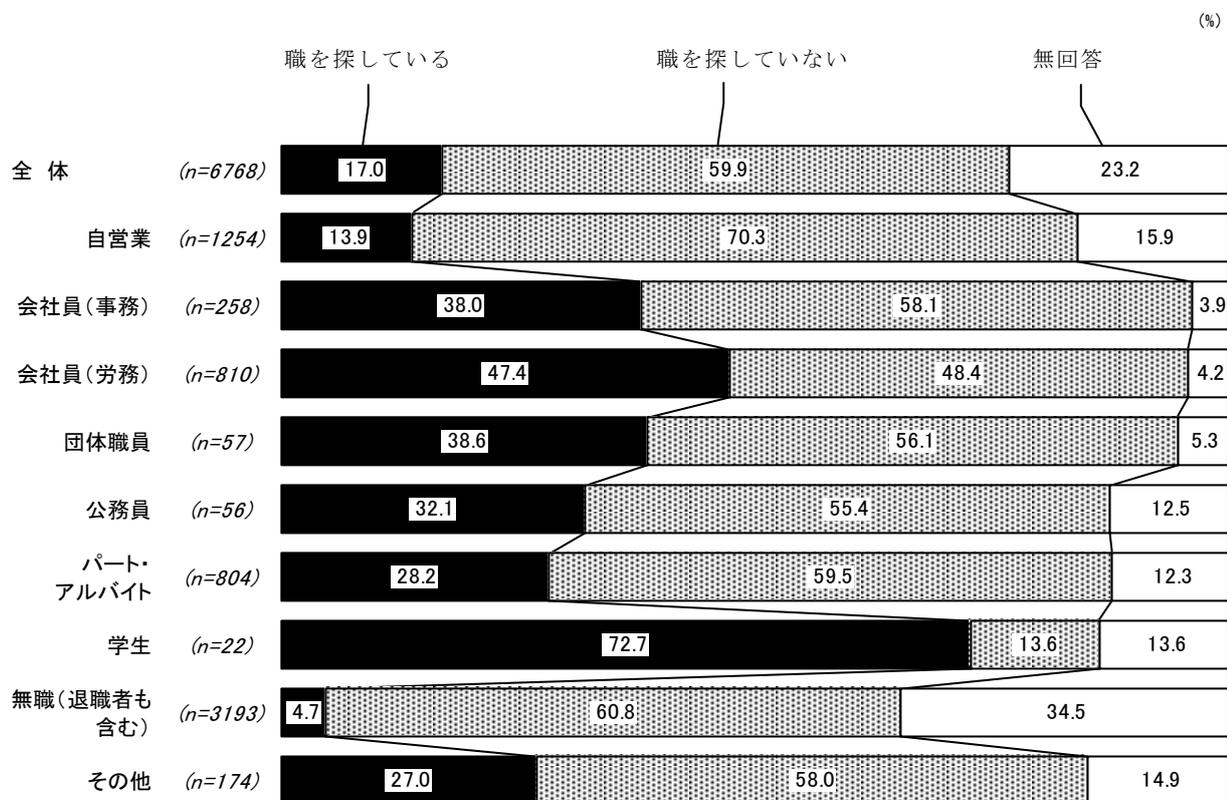
図表3-3-8 求職状況(性・年代別)

(%)



震災発生当時の職業別に見ると、当時会社員(労務)だった回答者の半数近くは「職を探している」(47.4%)と回答している。これに対して、当時自営業者で「職を探している」という回答者は 13.9%にとどまり、7割が「職を探していない」(70.3%)と回答している。(図表 3-3-9)

図表 3-3-9 求職状況(震災発生当時の職業別)



【問5-3で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。】

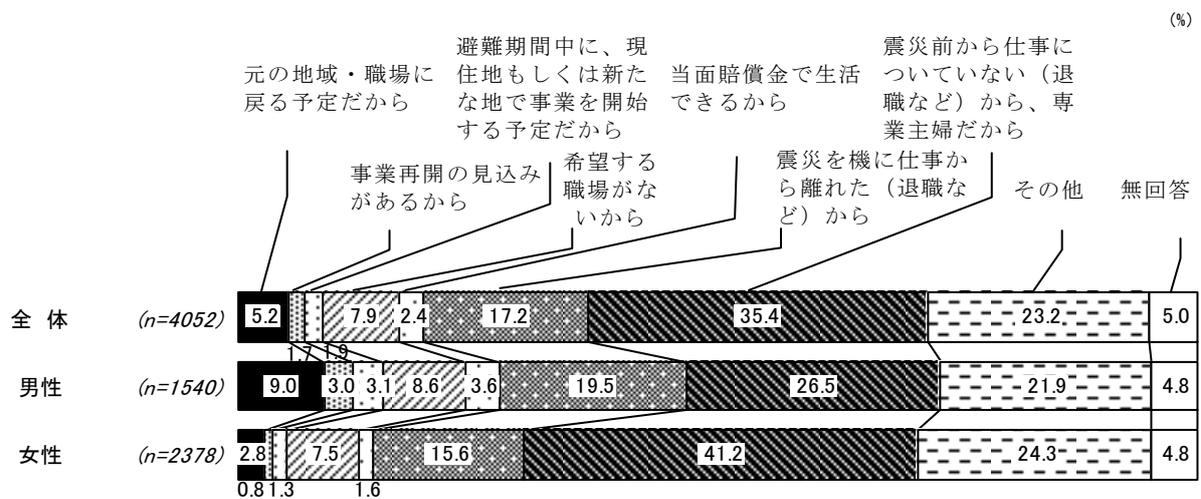
問5-4 現在、職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(〇は1つ)

職を探していない休業者・無職者(4,052人)の理由としては、「震災前から仕事についていない(退職など)から、専業主婦だから」という回答者が35.4%で最も多く、次いで「震災を機に仕事から離れた(退職など)から」(17.2%)となっている。(図表3-3-10)

「その他」という回答者が23.2%(939人)いるが、内容としては「高齢のため」(373人)、「健康上の理由」(167人)、「育児のため」(101人)などが主なものである。

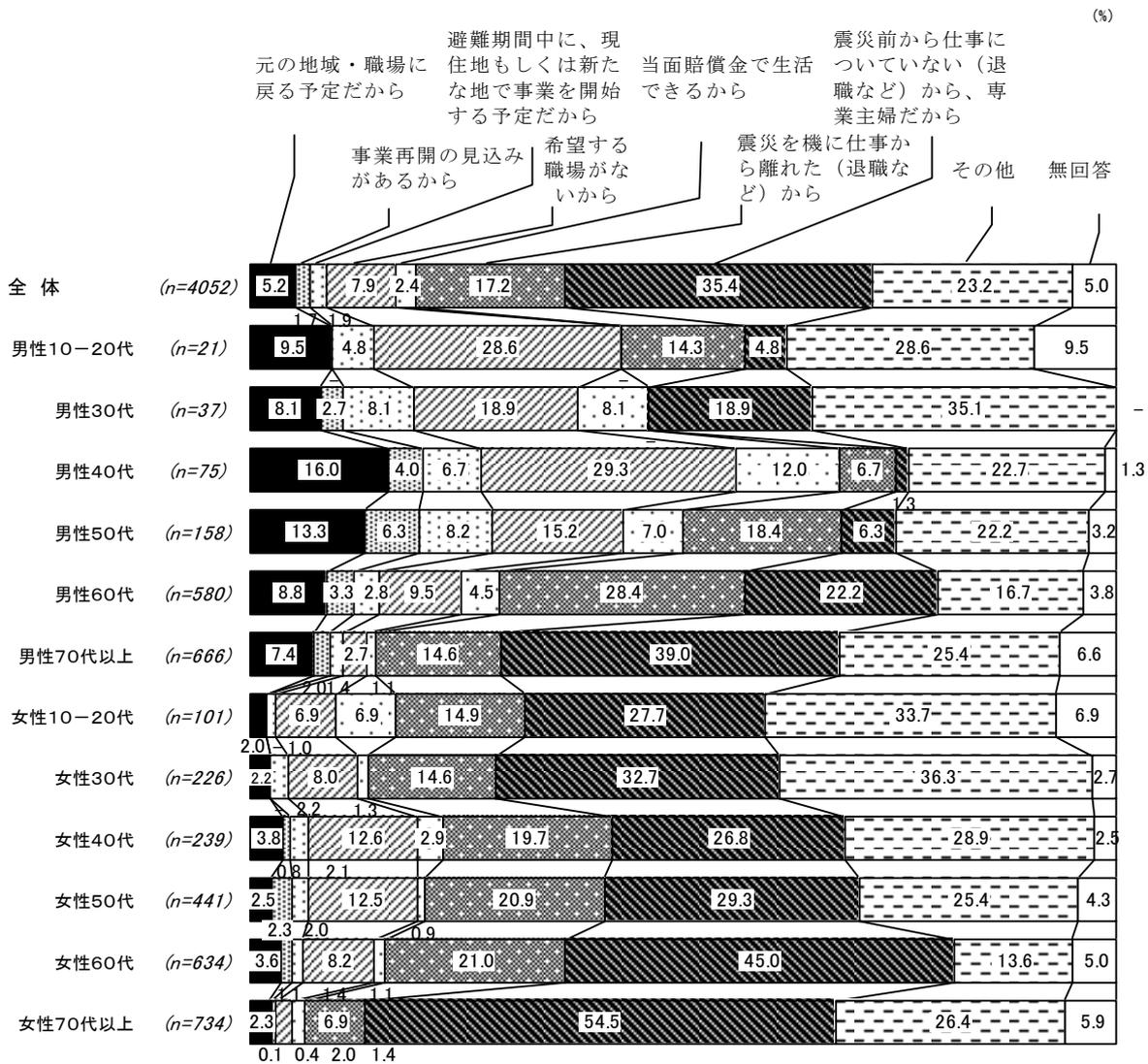
男女別に見ると、「震災前から仕事についていない(退職など)から、専業主婦だから」(男性26.5%、女性41.2%)という回答者は、女性で4割を上回り、男女差が大きくなっている。(図表3-3-10)

図表 3-3-10 職を探していない理由(男女別)



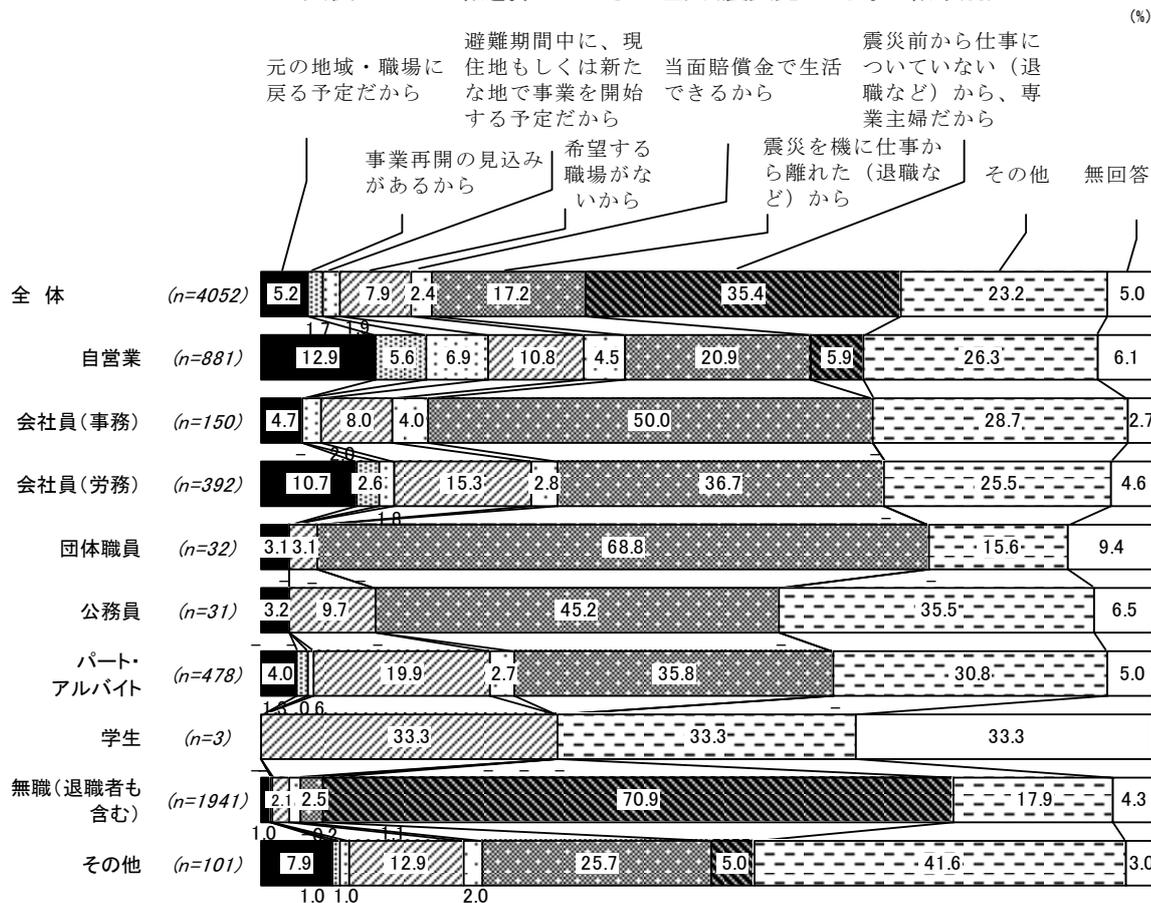
性・年代別に見ると、男性の40代では、「希望する職場がないから」という回答者が29.3%で最も多くなっている。また、男性の40～50代で、「元の地域・職場に戻る予定だから」という回答者が他の性・年齢層より多くなっている。(図表3-3-11)

図表 3-3-11 職を探していない理由(性・年代別)



震災発生当時の職業別に見ると、当時有職者では「震災を機に仕事から離れた(退職など)から」という回答者が最も多くなっている。(図表 3-3-12)

図表 3-3-12 職を探していない理由(震災発生当時の職業別)



震災発生当時有職で、現在求職していない回答者(2,065人)について、職を探していない理由を見ると、「震災を機に仕事から離れた(退職など)から」という回答者が30.8%で最も多く、次いで「希望する職場がないから」(13.5%)、「元の地域・職場に戻る予定だから」(9.3%)の順となっている。(図表 3-3-13)

男女別に見ると、「元の地域・職場に戻る予定だから」(男性13.7%、女性5.7%)という回答者は、女性より男性に多くなっている。(図表 3-3-13)

図表 3-3-13 職を探していない理由(震災発生当時有職者の男女別)

